

小城市の古賀君(三日月) 小6年 抱負

21日に開かれる「全国選抜小学生プログラミング大会」に佐賀県代表として出場する小城市的三日月小6年の古賀巧隼君が8日、市役所を訪れ、大野敬一郎教育長に抱負を伝えた。古賀君は全国優勝への意気込みを示し、「困っている人を助けられるような機器を作りたい」と将来の夢を語った。

「人を助ける機器作りたい」

プログラミングの技術を活用した発想力や表現力を競う大会で、

佐賀新聞社などでつくる全国新聞事業協議会が初めて開く。佐賀など33都府県の予選を勝ち抜いた33組が出場、オンライン方式で

うに設計した。2020年12月に開かれた

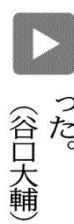
「さがプログラミングアワード」(佐賀新聞社主催、公共デザインイニシアティブ共催、学映システム特別協賛)の高学年の部で大賞に輝き、全国大会出場を決めた。

趣味でラジコンを作つていた祖父を見て、ものづくりに興味を持つたという古賀君。消しゴムを動かすロボットは「手が不自由な人でも、ボタン一つで動かせたら便利じゃないか」と思い付いたとい

プログラミング、全国で腕試し



全国大会に向けて、大野敬一郎・小城市教育長と時々
ツチで活躍を誓った古賀巧隼君(市役所)



(谷口大輔)

